

## 【表紙】

【提出書類】	半期報告書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条の5 第1項の表の第1号
【提出先】	近畿財務局長
【提出日】	2026年2月13日
【中間会計期間】	第22期中(自 2025年7月1日 至 2025年12月31日)
【会社名】	株式会社ナガオカ
【英訳名】	NAGAOKA INTERNATIONAL CORPORATION
【代表者の役職氏名】	代表取締役社長 梅津 泰久
【本店の所在の場所】	大阪市中央区安土町1丁目8番15号
【電話番号】	(06) 6261-6600(代表)
【事務連絡者氏名】	常務取締役 楠本 智也
【最寄りの連絡場所】	大阪市中央区安土町1丁目8番15号
【電話番号】	(06) 6261-6600(代表)
【事務連絡者氏名】	常務取締役 楠本 智也
【縦覧に供する場所】	株式会社東京証券取引所 (東京都中央区日本橋兜町2番1号)

## 第一部【企業情報】

### 第1【企業の概況】

#### 1【主要な経営指標等の推移】

回次	第21期 中間連結会計期間	第22期 中間連結会計期間	第21期
会計期間	自2024年7月1日 至2024年12月31日	自2025年7月1日 至2025年12月31日	自2024年7月1日 至2025年6月30日
売上高 (千円)	3,604,738	3,040,594	8,917,041
経常利益 (千円)	512,668	141,910	1,509,150
親会社株主に帰属する中間 (当期)純利益 (千円)	336,565	125,744	970,374
中間包括利益又は包括利益 (千円)	270,909	339,052	745,237
純資産額 (千円)	7,033,449	7,588,952	7,507,777
総資産額 (千円)	8,697,986	9,266,429	10,023,654
1株当たり中間(当期)純利益 (円)	48.13	18.02	138.90
潜在株式調整後1株当たり中間 (当期)純利益 (円)	-	-	-
自己資本比率 (%)	80.9	81.9	74.9
営業活動による キャッシュ・フロー (千円)	170,592	254,604	514,954
投資活動による キャッシュ・フロー (千円)	204,720	47,734	133,947
財務活動による キャッシュ・フロー (千円)	266,483	361,841	308,957
現金及び現金同等物の 中間期末(期末)残高 (千円)	2,127,518	2,339,063	2,427,654

(注) 1. 当社は中間連結財務諸表を作成していますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載していません。

2. 潜在株式調整後1株当たり中間(当期)純利益については、潜在株式が存在しないため記載していません。

#### 2【事業の内容】

当中間連結会計期間において、当社グループ(当社及び当社の関係会社)が営む事業の内容について、重要な変更はありません。また、主要な関係会社における異動もありません。

## 第2【事業の状況】

### 1【事業等のリスク】

当中間連結会計期間において、新たな事業等のリスクの発生、又は、前事業年度の有価証券報告書に記載した事業等のリスクについての重要な変更はありません。

### 2【経営者による財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中の将来に関する事項は、当中間連結会計期間の末日現在において判断したものです。

#### (1) 経営成績の状況

当中間連結会計期間におけるわが国経済は、雇用・所得環境の改善等により、ゆるやかな回復基調となったものの、継続的な物価上昇による消費マインドの低下、米国の政策動向による影響など、景気下振れが懸念される先行き不透明な状況で推移しました。

このような状況の下、当社グループでは、2025年6月期（前期）を初年度とし、3ヵ年を計画期間とする中期経営計画「FLIGHT PLAN：TRANSFORM 2027」に基づき、その計画に掲げた 既存事業の改革、M&Aを活用した事業構造の変革、人的資本の強化について、継続的に取り組んであります。

水関連事業では、従前より当社グループの事業領域であった「上水道に用いられる地下水の取水」や「ケミレスを用いた水処理プロセス」の前後の工程を新たな事業領域とするとともに、当社グループが提案・受託可能な水処理プラント運営・メンテナンスなどの事業領域の拡充に向けて取り組んであります。また、下水道や排水処理といった上水道以外の水事業領域への参入についても検討を進め、総合水処理企業への転換を図り、事業規模の拡大、収益力の強化を目指しております。

エネルギー関連事業では、設備更新が計画的に実施される既設プラントの更新需要の獲得に注力することで事業の安定化を図りつつ、新規プラント建設に係る需要についても積極的な営業活動に取り組んであります。また、当社グループが競争優位性を持つプロセスについては、特定のプロセス・オーナーの案件だけに傾注せず、幅広く営業活動を展開すること、競争優位性を持つプロセス以外の製品群の取り扱いを拡大すること、コスト競争力の強化や地政学的なリスクも視野に入れた製造拠点の最適化を進めることに取り組み、受注機会の拡大と収益力の強化を目指しております。

当中間連結会計期間における当社グループの経営成績は、売上高3,040,594千円（前年同期比15.7%減）、営業利益123,305千円（前年同期比75.0%減）、経常利益141,910千円（前年同期比72.3%減）、親会社株主に帰属する中間純利益125,744千円（前年同期比62.6%減）となりました。

セグメント別の状況は、以下のとおりです。

#### 水関連事業

当中間期の受注は、例年と比べ中・小型の案件が多く、前年同期を下回る結果となりました。損益面については、受注済案件の製造・工事が予定どおり進捗しており、売上高は1,085,929千円（前年同期比10.5%増）となりました。一方で、前年同期と比較し、人員の増強や研究開発活動の強化に伴う販売費及び一般管理費の増加が影響し、セグメント損失は98,100千円（前年同期はセグメント損失23,617千円）となりました。

なお、水関連事業では、案件の受注・完成ともに下半期に偏る官公庁向けの案件が多く、民間向けや海外向けを含めた案件の多層化・重層化を目指しておりますが、中間期の業績は低調となる傾向があります。

#### エネルギー関連事業

当中間期の受注は、第1四半期の中国向け大口受注2件に加え、第2四半期には中東向けの設備更新に係る大口受注1件があり、前年同期を上回る結果となりましたが、2025年6月期末の受注残高が例年に比べて少なく、また、期中の受注についても時期が想定より後ろ倒しになったことにより製造の進捗を巻き返す状況には至っておりません。その結果、売上高は1,954,664千円（前年同期比25.5%減）、セグメント利益は503,737千円（前年同期比36.5%減）となりました。

## (2) 財政状態の分析

当中間連結会計期間末の資産合計は9,266,429千円となり、前連結会計年度末に比べ757,224千円減少しました。これは主に、受取手形、売掛金及び契約資産が649,271千円、電子記録債権が231,424千円減少したことによるものです。

負債合計は1,677,477千円となり、前連結会計年度末に比べ838,399千円減少しました。これは主に、流動負債のその他が370,993千円、支払手形及び買掛金が290,288千円、未払法人税等が174,737千円減少したことによるものです。

純資産合計は7,588,952千円となり、前連結会計年度末に比べ81,174千円増加しました。これは主に、配当金の支払により利益剰余金が244,164千円減少した一方で、為替換算調整勘定が261,013千円、親会社株主に帰属する中間純利益の計上により利益剰余金が125,744千円増加したことによるものです。

## (3) キャッシュ・フローの状況

当中間連結会計期間における現金及び現金同等物（以下、「資金」という。）は2,339,063千円となり、前連結会計年度末に比べ88,590千円の減少となりました。

当中間連結会計期間における各キャッシュ・フローの状況とそれらの変動要因は次のとおりです。

### （営業活動によるキャッシュ・フロー）

営業活動により得られた資金は254,604千円（前年同期は170,592千円の収入）となりました。これは主に、税金等調整前中間純利益196,947千円及び売上債権の減少額1,007,919千円の増加要因に対し、仕入債務の減少額318,915千円、未払費用の減少額276,459千円、法人税等の支払額220,914千円、未払金の減少額152,077千円の減少要因によるものです。

### （投資活動によるキャッシュ・フロー）

投資活動により使用した資金は47,734千円（前年同期は204,720千円の支出）となりました。これは主に、有形固定資産の取得による支出46,356千円の減少要因によるものです。

### （財務活動によるキャッシュ・フロー）

財務活動により使用した資金は361,841千円（前年同期は266,483千円の支出）となりました。これは主に、配当金の支払額244,073千円、自己株式の取得による支出91,380千円の減少要因によるものです。

## (4) 経営方針・経営戦略等

当中間連結会計期間において、当社グループが定めている経営方針・経営戦略等について重要な変更はありません。

## (5) 優先的に対処すべき事業上及び財務上の課題

当中間連結会計期間において、当社グループが優先的に対処すべき事業上及び財務上の課題について重要な変更及び新たに発生した課題はありません。

## (6) 研究開発活動

当中間連結会計期間における当社グループの研究開発費の総額は44,296千円です。なお、当中間連結会計期間において、当社グループの研究開発活動の状況に重要な変更はありません。

## 3 【重要な契約等】

該当事項はありません。

### 第3【提出会社の状況】

#### 1【株式等の状況】

##### (1)【株式の総数等】

###### 【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	14,008,000
計	14,008,000

###### 【発行済株式】

種類	中間会計期間末 現在発行数(株) (2025年12月31日)	提出日現在発行数(株) (2026年2月13日)	上場金融商品取引所名 又は登録認可金融商品 取引業協会名	内容
普通株式	7,078,400	7,078,400	東京証券取引所 スタンダード市場	権利内容に何ら限定 のない当社における 標準となる株式であ り、単元株式数は 100株です。
計	7,078,400	7,078,400	-	-

##### (2)【新株予約権等の状況】

###### 【ストックオプション制度の内容】

該当事項はありません。

###### 【その他の新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

##### (3)【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

##### (4)【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (株)	発行済株式 総数残高 (株)	資本金 増減額 (千円)	資本金残高 (千円)	資本準備金 増減額 (千円)	資本準備金 残高 (千円)
2025年7月1日～ 2025年12月31日	-	7,078,400	-	1,253,241	-	600,852

( 5 ) 【大株主の状況】

2025年12月31日現在

氏名又は名称	住所	所有株式数 ( 株 )	発行済株式(自己 株式を除く。)の 総数に対する所有 株式数の割合 ( % )
株式会社ハマダグループ	兵庫県姫路市網干区新在家1261番地の12	3,672,000	52.71
光通信KK投資事業有限責任組合無限 責任組合員光通信株式会社	東京都豊島区西池袋1丁目4-10	345,300	4.96
東海東京証券株式会社	名古屋市中村区名駅4丁目7番1号	200,000	2.87
楽天証券株式会社共有口	東京都港区南青山2丁目6番21号	168,700	2.42
梅津 泰久	東京都港区	153,600	2.20
樋本 智也	大阪市福島区	70,080	1.01
株式会社SBI証券	東京都港区六本木1丁目6番1号	67,868	0.97
株式会社フラクタル・ビジネス	長野県小諸市田町2丁目6-13	63,600	0.91
三菱UFJeスマート証券株式会社	東京都千代田区霞が関3丁目2番5号霞が 関ビルディング24階	58,600	0.84
奥村 学	長野県小諸市	51,000	0.73
計	-	4,850,748	69.63

( 注 ) 「発行済株式(自己株式を除く。)の総数に対する所有株式数の割合」は、小数点第3位を四捨五入しています。

( 6 ) 【議決権の状況】

【発行済株式】

2025年12月31日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式	-	-	-
議決権制限株式(自己株式等)	-	-	-
議決権制限株式(その他)	-	-	-
完全議決権株式(自己株式等)	普通株式 111,800	-	-
完全議決権株式(その他)	普通株式 6,960,400	69,604	権利内容に何ら限定のない、当社における標準となる株式であり、単元株式数は100株です。
単元未満株式	普通株式 6,200	-	-
発行済株式総数	7,078,400	-	-
総株主の議決権	-	69,604	-

(注) 「単元未満株式」欄の普通株式には、当社所有の77株が含まれています。

【自己株式等】

2025年12月31日現在

所有者の氏名又は名称	所有者の住所	自己名義所有株式数(株)	他人名義所有株式数(株)	所有株式数の合計(株)	発行済株式総数に対する所有株式数の割合(%)
株式会社ナガオカ	大阪市中央区安土町 1丁目8番15号	111,800	-	111,800	1.58
計	-	111,800	-	111,800	1.58

2 【役員の状況】

該当事項はありません。

## 第4【経理の状況】

### 1. 中間連結財務諸表の作成方法について

当社の中間連結財務諸表は、「連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」（昭和51年大蔵省令第28号。以下「連結財務諸表規則」という。）に基づいて作成しています。

また、当社は、金融商品取引法第24条の5第1項の表の第1号の上欄に掲げる会社に該当し、連結財務諸表規則第1編及び第3編の規定により第1種中間連結財務諸表を作成しております。

### 2. 監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、中間連結会計期間（2025年7月1日から2025年12月31日まで）に係る中間連結財務諸表について、桜橋監査法人による期中レビューを受けております。

1【中間連結財務諸表】

(1)【中間連結貸借対照表】

(単位:千円)

	前連結会計年度 (2025年6月30日)	当中間連結会計期間 (2025年12月31日)
<b>資産の部</b>		
<b>流動資産</b>		
現金及び預金	2,519,603	2,431,505
受取手形、売掛金及び契約資産	4,056,302	3,407,031
電子記録債権	314,795	83,371
商品及び製品	10,630	16,335
仕掛品	85,755	192,043
原材料及び貯蔵品	459,929	505,936
その他	264,412	460,236
貸倒引当金	10,464	6,138
<b>流動資産合計</b>	<b>7,700,966</b>	<b>7,090,320</b>
<b>固定資産</b>		
<b>有形固定資産</b>		
建物及び構築物(純額)	668,145	699,703
機械装置及び運搬具(純額)	189,915	204,482
工具、器具及び備品(純額)	71,178	70,592
土地	149,095	149,095
リース資産(純額)	12,615	10,109
建設仮勘定	6,196	2,418
<b>有形固定資産合計</b>	<b>1,097,146</b>	<b>1,136,401</b>
<b>無形固定資産</b>		
のれん	9,575	7,181
その他	260,326	282,307
<b>無形固定資産合計</b>	<b>269,902</b>	<b>289,489</b>
<b>投資その他の資産</b>		
長期前払費用	589,545	552,375
繰延税金資産	101,831	86,600
その他	273,829	111,241
貸倒引当金	9,567	-
<b>投資その他の資産合計</b>	<b>955,638</b>	<b>750,218</b>
<b>固定資産合計</b>	<b>2,322,687</b>	<b>2,176,108</b>
<b>資産合計</b>	<b>10,023,654</b>	<b>9,266,429</b>

( 単位 : 千円 )

	前連結会計年度 ( 2025年 6月30日 )	当中間連結会計期間 ( 2025年12月31日 )
<b>負債の部</b>		
<b>流動負債</b>		
支払手形及び買掛金	1,228,615	938,327
短期借入金	156,115	150,000
1年内償還予定の社債	10,000	5,000
1年内返済予定の長期借入金	9,924	9,924
未払法人税等	201,372	26,634
賞与引当金	3,690	2,015
役員賞与引当金	-	10,000
役員株式報酬引当金	-	6,816
その他	771,715	400,722
流動負債合計	2,381,433	1,549,440
<b>固定負債</b>		
長期借入金	40,612	35,650
退職給付に係る負債	82,970	85,675
その他	10,861	6,712
<b>固定負債合計</b>	<b>134,443</b>	<b>128,037</b>
<b>負債合計</b>	<b>2,515,877</b>	<b>1,677,477</b>
<b>純資産の部</b>		
<b>株主資本</b>		
資本金	1,253,241	1,253,241
資本剰余金	974,311	1,001,208
利益剰余金	4,842,750	4,724,330
自己株式	103,026	143,637
<b>株主資本合計</b>	<b>6,967,276</b>	<b>6,835,143</b>
<b>その他の包括利益累計額</b>		
その他有価証券評価差額金	36,835	-
繰延ヘッジ損益	228	10,641
為替換算調整勘定	503,436	764,450
<b>その他の包括利益累計額合計</b>	<b>540,500</b>	<b>753,809</b>
<b>純資産合計</b>	<b>7,507,777</b>	<b>7,588,952</b>
<b>負債純資産合計</b>	<b>10,023,654</b>	<b>9,266,429</b>

(2) 【中間連結損益計算書及び中間連結包括利益計算書】

【中間連結損益計算書】

(単位:千円)

	前中間連結会計期間 (自 2024年7月1日 至 2024年12月31日)	当中間連結会計期間 (自 2025年7月1日 至 2025年12月31日)
売上高	3,604,738	3,040,594
売上原価	2,182,099	1,927,722
売上総利益	1,422,638	1,112,872
販売費及び一般管理費	928,435	989,567
営業利益	494,203	123,305
営業外収益		
受取利息	6,517	3,886
為替差益	-	11,126
スクラップ売却益	35,656	2,249
補助金収入	1,995	4,675
その他	2,012	1,893
営業外収益合計	46,181	23,832
営業外費用		
支払利息	3,551	5,074
為替差損	9,658	-
株式報酬費用消滅損	14,120	-
その他	385	153
営業外費用合計	27,715	5,227
経常利益	512,668	141,910
特別利益		
固定資産売却益	-	1,374
投資有価証券売却益	-	53,662
特別利益合計	-	55,036
特別損失		
固定資産除却損	-	0
特別損失合計	-	0
税金等調整前中間純利益	512,668	196,947
法人税、住民税及び事業税	120,472	34,735
法人税等調整額	55,630	36,467
法人税等合計	176,103	71,202
中間純利益	336,565	125,744
親会社株主に帰属する中間純利益	336,565	125,744

【中間連結包括利益計算書】

( 単位 : 千円 )

	前中間連結会計期間 (自 2024年7月1日 至 2024年12月31日)	当中間連結会計期間 (自 2025年7月1日 至 2025年12月31日)
中間純利益	336,565	125,744
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	18,604	36,835
繰延ヘッジ損益	3,751	10,869
為替換算調整勘定	50,803	261,013
その他の包括利益合計	65,656	213,308
中間包括利益	270,909	339,052
( 内訳 )		
親会社株主に係る中間包括利益	270,909	339,052

(3)【中間連結キャッシュ・フロー計算書】

(単位:千円)

	前中間連結会計期間 (自 2024年7月1日 至 2024年12月31日)	当中間連結会計期間 (自 2025年7月1日 至 2025年12月31日)
<b>営業活動によるキャッシュ・フロー</b>		
税金等調整前中間純利益	512,668	196,947
減価償却費	76,775	70,947
のれん償却額	2,393	2,393
株式報酬費用	39,520	44,551
貸倒引当金の増減額(は減少)	2,403	13,892
賞与引当金の増減額(は減少)	2,139	1,674
役員賞与引当金の増減額(は減少)	28,800	10,000
退職給付に係る負債の増減額(は減少)	5,256	2,705
受取利息及び受取配当金	6,517	3,886
為替差損益(は益)	3,708	1,705
支払利息	3,551	5,074
株式報酬費用消滅損	14,120	-
投資有価証券売却損益(は益)	-	53,662
売上債権の増減額(は増加)	1,130,006	1,007,919
棚卸資産の増減額(は増加)	81,887	121,403
仕入債務の増減額(は減少)	176,645	318,915
未払費用の増減額(は減少)	324,581	276,459
契約負債の増減額(は減少)	263,264	593
未払金の増減額(は減少)	299,979	152,077
その他	45,125	76,176
小計	611,118	477,042
利息及び配当金の受取額	6,517	3,886
利息の支払額	3,856	5,410
法人税等の支払額	443,187	220,914
<b>営業活動によるキャッシュ・フロー</b>	<b>170,592</b>	<b>254,604</b>
<b>投資活動によるキャッシュ・フロー</b>		
定期預金の預入による支出	105,000	421
有形固定資産の取得による支出	79,971	46,356
無形固定資産の取得による支出	2,587	6,574
差入保証金の差入による支出	21,037	634
差入保証金の回収による収入	3,906	4,147
その他	30	2,104
<b>投資活動によるキャッシュ・フロー</b>	<b>204,720</b>	<b>47,734</b>
<b>財務活動によるキャッシュ・フロー</b>		
短期借入金の純増減額(は減少)	15,674	13,534
長期借入金の返済による支出	4,962	4,962
社債の償還による支出	5,000	5,000
リース債務の返済による支出	3,267	2,753
自己株式の取得による支出	-	91,380
配当金の支払額	237,578	244,073
その他	-	137
<b>財務活動によるキャッシュ・フロー</b>	<b>266,483</b>	<b>361,841</b>
現金及び現金同等物に係る換算差額	18,301	66,381
現金及び現金同等物の増減額(は減少)	318,913	88,590
現金及び現金同等物の期首残高	2,446,431	2,427,654
現金及び現金同等物の中間期末残高	2,127,518	2,339,063

【注記事項】

( 中間連結貸借対照表関係 )

中間連結会計期間末日満期手形等

中間連結会計期間末日満期手形等の会計処理は、手形交換日又は決済日をもって決済処理をしています。なお、当中間連結会計期間末日が金融機関の休日であったため、次の中間連結会計期間末日満期手形等が、中間連結会計期間末日残高に含まれています。また、決算日が連結決算日と異なる連結子会社の当中間連結会計期間の末日が金融機関の休日であったため、次の中間連結会計期間末日満期手形等が、中間連結会計期間末日残高に含まれています。

	前連結会計年度 ( 2025年 6月30日 )	当中間連結会計期間 ( 2025年12月31日 )
電子記録債権	- 千円	4,323千円
支払手形	-	18,045

( 中間連結損益計算書関係 )

販売費及び一般管理費のうち主要な費目及び金額は次のとおりです。

	前中間連結会計期間 ( 自 2024年 7月 1日 至 2024年12月31日 )	当中間連結会計期間 ( 自 2025年 7月 1日 至 2025年12月31日 )
役員株式報酬引当金繰入額	- 千円	6,816千円
給与手当	231,047	248,433
役員賞与引当金繰入額	28,800	10,000
退職給付費用	3,768	4,009
貸倒引当金繰入額	2,403	4,325
賞与引当金繰入額	372	446

( 中間連結キャッシュ・フロー計算書関係 )

現金及び現金同等物の中間期末残高と中間連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係は下記のとおりです。

	前中間連結会計期間 ( 自 2024年 7月 1日 至 2024年12月31日 )	当中間連結会計期間 ( 自 2025年 7月 1日 至 2025年12月31日 )
現金及び預金勘定	2,327,096千円	2,431,505千円
預入期間が3か月を超える定期預金	199,578	92,441
現金及び現金同等物	2,127,518	2,339,063

(株主資本等関係)

前中間連結会計期間（自 2024年 7月 1日 至 2024年12月31日）

1. 配当に関する事項

配当金支払額

2024年 9月26日開催の定時株主総会において、次のとおり決議しています。

普通株式の配当に関する事項

配当金の総額	237,833千円
1株当たり配当額	34円
基準日	2024年 6月30日
効力発生日	2024年 9月27日
配当の原資	利益剰余金

2. 基準日が当中間連結会計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当中間連結会計期間の末日後となるもの

該当事項はありません。

3. 株主資本の著しい変動に関する事項

該当事項はありません。

当中間連結会計期間（自 2025年 7月 1日 至 2025年12月31日）

1. 配当に関する事項

配当金支払額

2025年 9月25日開催の定時株主総会において、次のとおり決議しています。

普通株式の配当に関する事項

配当金の総額	244,164千円
1株当たり配当額	35円
基準日	2025年 6月30日
効力発生日	2025年 9月26日
配当の原資	利益剰余金

2. 基準日が当中間連結会計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当中間連結会計期間の末日後となるもの

該当事項はありません。

3. 株主資本の著しい変動に関する事項

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前中間連結会計期間（自 2024年7月1日 至 2024年12月31日）

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント			調整額 (注)1	中間連結損益 計算書計上額 (注)2
	エネルギー関連	水関連	計		
売上高					
外部顧客への売上高	2,622,071	982,666	3,604,738	-	3,604,738
セグメント間の内部売上高 又は振替高	-	-	-	-	-
計	2,622,071	982,666	3,604,738	-	3,604,738
セグメント利益又は損失( )	792,862	23,617	769,245	275,042	494,203

(注) 1. セグメント利益又は損失の調整額 275,042千円は、各報告セグメントに配分していない全社費用です。全社費用は、主に、各報告セグメントに帰属しない役員及び管理部門に係る人件費、経費等の一般管理費です。

2. セグメント利益又は損失は、中間連結損益計算書の営業利益と調整を行っています。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

当中間連結会計期間（自 2025年7月1日 至 2025年12月31日）

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント			調整額 (注)1	中間連結損益 計算書計上額 (注)2
	エネルギー関連	水関連	計		
売上高					
外部顧客への売上高	1,954,664	1,085,929	3,040,594	-	3,040,594
セグメント間の内部売上高 又は振替高	-	-	-	-	-
計	1,954,664	1,085,929	3,040,594	-	3,040,594
セグメント利益又は損失( )	503,737	98,100	405,636	282,331	123,305

(注) 1. セグメント利益又は損失の調整額 282,331千円は、各報告セグメントに配分していない全社費用です。全社費用は、主に、各報告セグメントに帰属しない役員及び管理部門に係る人件費、経費等の一般管理費です。

2. セグメント利益又は損失は、中間連結損益計算書の営業利益と調整を行っています。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

(収益認識関係)

顧客との契約から生じる収益を分解した情報

前中間連結会計期間（自 2024年7月1日 至 2024年12月31日）

(単位：千円)

	報告セグメント		合計
	エネルギー関連	水関連	
収益認識の時期			
一時点で移転される財及びサービス	131,228	664,088	795,316
一定の期間にわたり移転される財及びサービス	2,490,843	318,577	2,809,421
外部顧客への売上高	2,622,071	982,666	3,604,738
地域別			
日本	88,822	885,404	974,227
中国	1,556,033	-	1,556,033
アジア（中国を除く）	432,474	97,261	529,735
米州	436,028	-	436,028
欧州	12,148	-	12,148
中東	11,781	-	11,781
アフリカ	84,783	-	84,783
外部顧客への売上高	2,622,071	982,666	3,604,738

当中間連結会計期間（自 2025年7月1日 至 2025年12月31日）

(単位：千円)

	報告セグメント		合計
	エネルギー関連	水関連	
収益認識の時期			
一時点で移転される財及びサービス	262,777	542,933	805,711
一定の期間にわたり移転される財及びサービス	1,691,887	542,996	2,234,883
外部顧客への売上高	1,954,664	1,085,929	3,040,594
地域別			
日本	25,204	987,572	1,012,776
中国	589,855	-	589,855
アジア（中国を除く）	304,686	88,606	393,293
米州	433,351	-	433,351
欧州	179,200	9,750	188,950
中東	371,541	-	371,541
アフリカ	50,824	-	50,824
外部顧客への売上高	1,954,664	1,085,929	3,040,594

( 1 株当たり情報 )

1 株当たり中間純利益及び算定上の基礎は、以下のとおりです。

	前中間連結会計期間 (自 2024年7月1日 至 2024年12月31日)	当中間連結会計期間 (自 2025年7月1日 至 2025年12月31日)
1 株当たり中間純利益	48円13銭	18円02銭
( 算定上の基礎 )		
親会社株主に帰属する中間純利益(千円)	336,565	125,744
普通株主に帰属しない金額(千円)	-	-
普通株式に係る親会社株主に帰属する中間純利益(千円)	336,565	125,744
普通株式の期中平均株式数(株)	6,992,691	6,978,732

( 注 ) 潜在株式調整後 1 株当たり中間純利益については、潜在株式が存在しないため記載していません。

2 【その他】

該当事項はありません。

## 第二部【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

## 独立監査人の中間連結財務諸表に対する期中レビュー報告書

2026年2月13日

株式会社ナガオカ  
取締役会 御中

桜橋監査法人  
大阪府大阪市

指定社員  
業務執行社員      公認会計士 川崎 健一

指定社員  
業務執行社員      公認会計士 椎野 友教

### 監査人の結論

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている株式会社ナガオカの2025年7月1日から2026年6月30日までの連結会計年度の中間連結会計期間（2025年7月1日から2025年12月31日まで）に係る中間連結財務諸表、すなわち、中間連結貸借対照表、中間連結損益計算書、中間連結包括利益計算書、中間連結キャッシュ・フロー計算書及び注記について期中レビューを行った。

当監査法人が実施した期中レビューにおいて、上記の中間連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、株式会社ナガオカ及び連結子会社の2025年12月31日現在の財政状態並びに同日をもって終了する中間連結会計期間の経営成績及びキャッシュ・フローの状況を適正に表示していないと信じさせる事項が全ての重要な点において認められなかった。

### 監査人の結論の根拠

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる期中レビューの基準に準拠して期中レビューを行った。期中レビューの基準における当監査法人の責任は、「中間連結財務諸表の期中レビューにおける監査人の責任」に記載されている。当監査法人は、我が国における職業倫理に関する規定（社会的影響度の高い事業体の財務諸表監査に適用される規定を含む。）に従って、会社及び連結子会社から独立しており、また、監査人としてのその他の倫理上の責任を果たしている。当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

### 中間連結財務諸表に対する経営者及び監査等委員会の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して中間連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない中間連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

中間連結財務諸表を作成するに当たり、経営者は、継続企業の前提に基づき中間連結財務諸表を作成することが適切であるかどうかを評価し、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に基づいて継続企業に関する事項を開示する必要がある場合には当該事項を開示する責任がある。

監査等委員会の責任は、財務報告プロセスの整備及び運用における取締役の職務の執行を監視することにある。

### 中間連結財務諸表の期中レビューにおける監査人の責任

監査人の責任は、監査人が実施した期中レビューに基づいて、期中レビュー報告書において独立の立場から中間連結財務諸表に対する結論を表明することにある。

監査人は、我が国において一般に公正妥当と認められる期中レビューの基準に従って、期中レビューの過程を通じて、職業的専門家としての判断を行い、職業的懐疑心を保持して以下を実施する。

- 主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対する質問、分析的手続その他の期中レビュー手続を実施する。期中レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

- ・ 継続企業の前提に関する事項について、重要な疑義を生じさせるような事象又は状況に関して重要な不確実性が認められると判断した場合には、入手した証拠に基づき、中間連結財務諸表において、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、適正に表示されていないと信じさせる事項が認められないかどうか結論付ける。また、継続企業の前提に関する重要な不確実性が認められる場合は、期中レビュー報告書において中間連結財務諸表の注記事項に注意を喚起すること、又は重要な不確実性に関する中間連結財務諸表の注記事項が適切でない場合は、中間連結財務諸表に対して限定付結論又は否定的結論を表明することが求められている。監査人の結論は、期中レビュー報告書日までに入手した証拠に基づいているが、将来の事象や状況により、企業は継続企業として存続できなくなる可能性がある。
- ・ 中間連結財務諸表の表示及び注記事項が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠していないと信じさせる事項が認められないかどうかとともに、関連する注記事項を含めた中間連結財務諸表の表示、構成及び内容、並びに中間連結財務諸表が基礎となる取引や会計事象を適正に表示していないと信じさせる事項が認められないかどうかを評価する。
- ・ 中間連結財務諸表に対する結論表明の基礎となる、会社及び連結子会社の財務情報に関する証拠を入手する。監査人は、中間連結財務諸表の期中レビューに関する指揮、監督及び査閲に関して責任がある。監査人は、単独で監査人の結論に対して責任を負う。監査人は、監査等委員会に対して、計画した期中レビューの範囲とその実施時期、期中レビュー上の重要な発見事項について報告を行う。監査人は、監査等委員会に対して、独立性についての我が国における職業倫理に関する規定を遵守したこと、並びに監査人の独立性に影響を与えると合理的に考えられる事項、及び阻害要因を除去するための対応策を講じている場合又は阻害要因を許容可能な水準にまで軽減するためのセーフガードを適用している場合はその内容について報告を行う。

#### 利害関係

会社及び連結子会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

(注) 1. 上記は期中レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社(半期報告書提出会社)が別途保管しています。

2. XBRLデータは期中レビューの対象には含まれていません。